



「6年生を送る会」を開催しました。

2月27日(火)、2,3限目を使って「6年生を送る会」を行いました。1～5年生、各学年が趣向を凝らした出し物で6年生を楽しませてくれました。1年生が6年生に首からお礼のメダルをかけている姿はとても微笑ましかったです。元気よくメッセージを言っている姿も素敵でした。2年生は「おてがみ」という教材を、がまくんとかえるくんの寸劇で、なかまの大切さを訴えてくれました。歌も大きな声で体育館に響いていました。3年生はクリキンディーの「はちどりのひとしずく」のフレーズを、一人ずつマイクでつないで物語にしてくれました。「ソーラン踊り」ではアンコールの後、6年生も交じって踊り、楽しい時間が過ぎました。4年生は、呼びかけ、踊り、手話の手法でたくさんのメッセージを送っていました。最後に何人かがランドセルを背負って登場したときには、「何が起こるのだろうか?」と興味津々になりました。感謝の気持ちがしっかりと伝わる演出でした。5年生は、6年生の小学校生活での出来事をクイズ形式で6年間分振り返ってくれました。学年と学年が入れ替わる時にブリンバンバンボーの踊りを入れ、見ている6年生や低学年の子たちが自然と一緒に踊っている姿が印象的でした。送る会の終盤には、6年生がお礼の気持ちを込めて「いのちの歌」を歌ってくれました。「生まれてきたこと 育ててもらえたこと 出会ったこと 笑ったこと そのすべてにありがとう この命にありがとう」というフレーズが本当に心に響きました。しっかりと声が出ていて、下級生はきれいな歌声に耳を澄ませていました。

(裏面に「いのちの歌」の歌詞を載せました)

送る会の最後には、6年生から5年生へと校旗の引き継ぎが行われました。代表者が校旗を持って引き継ぐ姿は、おごそかな引き継ぎ式の中にも何か熱いものを感じました。その後、下級生、保護者、きらら推進(CS)委員等皆さんの拍手で6年生を見送りました。

コロナ禍が5類となり、入場制限も撤廃され、今年度は急きょ6年生の保護者も参加していただいたの送る会実施となりました。6年生は、多くの方々に見送られ、とてもうれしかったことと思います。当日は一段と寒い中、保護者、きらら推進(CS)委員の皆様には体育館での行事に長時間参加していただき、本当にありがとうございました。

「水沢のみらいを考える会」「きらら推進委員会(CS)」が開催されました。

2月27日(火)、18時から「水沢のみらいを考える会」が行われました。令和7年度から本校が小規模特認校制度を導入するにあたり、どのように小規模特認校制度の導入をアピールするのか、主に募集チラシ案について意見が交わされました。委員の皆様からは「小規模特認校制度が始まることをインパクトがあって伝わるように」「表面がイラストになっているが、自然に囲まれた学校をアピールできるように写真にしてみよう」「小学校卒業後の中学校への進路がどうなるのかについても掲載してはどうか」等の意見が出されました。今回出された意見を参考に、今年度中に再度募集チラシ案が練られ、来年度早々に四日市市内の小学校等に募集チラシが配付されます。

「水沢のみらいを考える会」の後、引き続き「きらら推進委員会(CS)」が行われました。開催当日午前中に、6年生を送る会を参観していただいたこともあり、「子どもたちが1つのことをやり切ろうとしている姿が良かった」「6年生が、出し物をしている下級生を見るまなざしがあたたかかった」「家庭での姿と学校での子ども姿が違って、成長を感じる一面があった」「南中ソーラン踊りの一体感、各学年のリズム、音楽、みんなで一つのものを作り上げることの素晴らしさを感じた」といった感想をいただきました。また、日頃の学校生活では、「タブレットの導入で機器操作もあり、先生も子どもも忙しく、授業中の子どもたちの集中力が心配」「登下校で低学年の子を連れ、世話をやきながら横断歩道を渡っている姿がある」「歩こう会やマラソン、文化祭等、地域と学校が連携して行事を行えているところが水沢地域のよさである」といったご意見もいただきました。

「保護者・児童アンケート結果」内容についても「きらら推進委員会(CS)」委員の皆様と共有させていただきました。今回いただいたご意見と合わせ、今後の学校運営にいかしていきたいと思っています。

(文責 北住 昌文)



「いのちの歌」

作詞：miyabi（竹内まりや）

作曲：村松崇継

生きてゆくことの意味

問いかけるそのたびに

胸をよぎる

愛しい

人々のあたたかさ

この星の片隅で

めぐり会えた奇跡は

どんな宝石よりも

たいせつな宝物

泣きたい日もある

絶望に嘆く日も

そんな時そばにいて

寄り添うあなたの影

二人で歌えば

懐かしくよみがえる

ふるさとの夕焼けの

優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは

隠れて見えない

ささやかすぎる日々の中に

かけがえない喜びがある

いつかは誰でも

この星にさよならを

する時が来るけれど

命は継がれてゆく

生まれてきたこと

育ててもらえたこと

出会えたこと笑ったこと

そのすべてにありがとう

この命にありがとう

